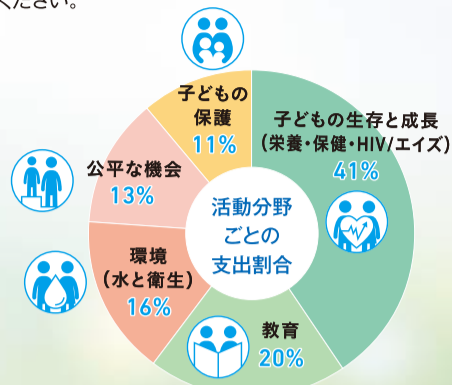


皆さまからのご寄付が  
子どもたちの大きな支えとなっています

ユニセフの総収入の内、29%が世界中の民間の皆さまから寄せられたご寄付でした。また、活動分野ごとの支出(合計79億8,500万米ドル)の内訳は下記をご覧ください。



\*割合は四捨五入しているため、合計が100%になりません。(2022年度実績)

ユニセフと各国ユニセフ協会(ユニセフ国内委員会)

ユニセフ(国際連合児童基金)は、世界中のすべての子どもたちが健やかに育ち、持って生まれた可能性を十分に伸ばすことができる世界の実現を目指す国連機関です。国連予算の配分は受けず、子どもたちのための支援は、皆さまからのご寄付と各国政府などからの任意の拠出金に支えられています。

また、世界33の先進国・地域には、民間におけるユニセフ支援の公式窓口であるユニセフ協会が置かれており、ユニセフとの協力協定に基づき、ユニセフを支える募金活動、ユニセフや世界の子どもたちの広報活動、子どもの権利の実現を目指して行うアドボカシー(政策提言)活動に取り組んでいます。各国ユニセフ協会における国内事業も皆さまからのご寄付に支えられています。

当協会の収支報告については「日本ユニセフ協会の活動」欄をご覧ください。



子どもたちのための  
あたたかいご寄付をお願い申し上げます

ユニセフ募金

郵便局(ゆうちょ銀行)から

全国の郵便局(ゆうちょ銀行)からお振込みいただけます。窓口をご利用の場合、振込手数料が免除されます。

振替口座:00190-5-31000

口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

インターネットから

パソコン・スマートフォン(www.unicef.or.jp)からクレジットカード、コンビニ支払い、Amazon Pay、携帯キャリア決済、インターネットバンキングでご寄付いただけます。

ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム

毎月ご任意の一定額を金融機関(銀行・信用金庫・ゆうちょ銀行等)の口座、またはクレジットカード決済による自動引き落としでご寄付いただく「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」にぜひご参加ください。世界の子どもたちの状況やユニセフの支援活動についてご報告する広報誌「ユニセフニュース」(年4回発行)をお送りいたします。お申込みは当協会ホームページまたはフリーダイヤルへ。

\*公益財団法人日本ユニセフ協会へのご寄付は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、法人税の控除対象となります。

「子どもの権利」を親子で学べるユニセフハウスへお越しください

2022年、「世界の子どもと出会う場所」としてリニューアルしたユニセフハウスは、世界の子どもたちとの出会いを通じて、小さなお子様からおとなまで、「子どもの権利」について、感じ、学び、考えていただける展示施設です。

アクセス	JR・京浜急行 品川駅 または地下鉄都営浅草線 高輪台駅より徒歩7分
開館日・時間	平日と第2・第4土曜日10:00~17:00(祝日を除く)

公益財団法人 日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

フリーダイヤル: 0120-88-1052(平日 9:00~17:00)

ホームページ: www.unicef.or.jp

各種 SNS もぜひご覧ください



世界の子どもたちへあたたかい  
ご協力をありがとうございます



日本ユニセフ協会の活動

募金活動

当協会では、インターネットやダイレクトメールを通じた都度のご寄付に加えて、ご任意の一定額を毎月自動引き落としでご寄付いただく「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」を受付けています。また、お選びいただいた支援物資を子どもたちに届ける「ユニセフ支援ギフト」、「ユニセフ遺産寄付プログラム」、「外国コイン募金」、ご自身でプロジェクトを立ち上げてご寄付を集めていただく「フレンドネーション」といった、様々な方法でご協力を呼びかけています。都度のご寄付として、紛争や災害などの緊急事態に直面している子どもたちのための緊急・復興募金を受付けており、長らく武力紛争の影響を受けるウクライナの子どもたち・避難民を支援する「ウクライナ緊急募金」や、2023年9月に発生したリビア大規模洪水や、10月に起きたアフガニスタン地震、トルコ・シリア地震の支援のための「自然災害緊急募金」などへのご協力を呼び掛けました。さらに、皆さまにボランティアとして募金活動にご参加いただく「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」を街頭で開催しました。

ご協力くださいました皆さまに  
心より御礼申し上げます

広報活動

世界約190の国と地域で展開するユニセフの活動や、貧困、災害、紛争などの要因で困難な状況におかれている子どもたちのことを広く知っていただくために、プレスリリース配信やホームページ掲載、SNS投稿を通じて情報発信を行っています。また、NHKの子ども向けSDGs番組「あおきいろ」とセサミワークショップとともに、世界の子ども一人ひとりに必要だと思うこと考える新シリーズ「みんなのfor every child」を共同制作しました(毎週Eテレにて放送)。展示施設ユニセフハウスでも「for every child(すべての子どもに\_\_を)」を掲げ、空欄に入る言葉を、展示体験を通じて考えていただいています。声優の名塚佳織さんとユニセフ・アジア親善大使のアグネス・チャンさんによる日本語と英語の音声ガイドもスタート。2022年10月のリニューアルオープンより修学旅行・社会科見学の子どもたち、親子連れや企業・団体の方など、多くの皆さまにご来館いただき、「第17回キッズデザイン賞」を受賞しました。



アドボカシー(政策提言)活動

子ども基本法施行と子ども家庭庁発足を契機として本格的に進められている子ども政策の検討過程において、ユニセフ本部と連携して、子ども家庭庁と協力しています。また、G7サミットや国連インターネットガバナンスフォーラムなど、国際会議の日本開催に合わせ、教育を通じた子どもの幸福度(well-being)の向上やオンラインの安全に関する取り組みなど、国内の事業について広く発信しました。また、SDGs学習のための副教材やウェブサイト「SDGs CLUB」は引き続き全国の学校で活用されているほか、「子どもの権利条約」に関するウェブページの拡充や「子どもの権利とスポーツの原則」子ども用サイトの開設など、子どもの権利についてわかりやすく伝える取り組みを進め、学校現場での「子どもの権利を大切に教育(CRE)」の実践も引き続き推進しています。「子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)」では、新たに1つの自治体がCFCIの実践に向けて取り組みを開始しました。

G7 富山・金沢教育大臣会合応援事業  
シンポジウムの様子



2022年度収支報告

皆さまからお預かりした募金総額の87.4%にあたる約291.8億円をユニセフ本部へ拠出しました。これは、各国のユニセフ協会と比較しても極めて高い拠出額・拠出率で、ユニセフが世界各地で実施している子どもたちのための支援活動に大きく貢献しています。また、各国ユニセフ協会は、ユニセフとの協力協定に基づき、ご寄付の25%以内で、世界の子どもたちの状況をより多くの方に知っていただき、ユニセフ支援の輪を広げる国内事業を行っています。

2022年度、当協会は募金総額の12.6%で、国内での募金・広報・アドボカシー(政策提言)活動や国際協力に携わる人材育成活動などを実施しました。今後も効率的な事業推進に努めてまいります。



収入内訳(公益目的事業会計)

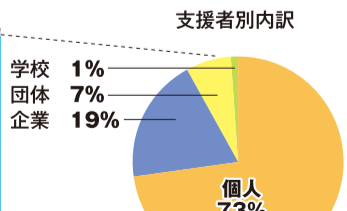
經常収益計  
33,505,199,599円

会費 30,966,000円  
寄付金 49,435,063円

募金 33,381,402,754円

雑収益ほか  
43,395,782円

ユニセフ募金  
33,381,402,754円



詳しい財務諸表等は当協会ホームページで公開しております。なお、2023年度の収支は2024年4月に当協会ホームページなどでご報告予定です。



支出内訳(公益目的事業会計)

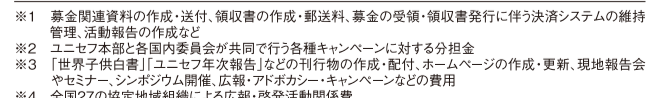
經常費用計  
33,514,409,434円

ユニセフ本部へ拠出  
87.1%  
(ユニセフ募金の87.4%)

日本国内における  
募金・広報・アドボカシー活動  
のための事業費  
12.9%

うち、事務運営費  
および人件費(※)  
1.7%

※1 募金関連資料の作成・送付、領収書の作成・郵送料、募金の受領・領収書発行に伴う決済システムの維持管理、活動報告の作成など  
※2 ユニセフ本部と各国内委員会が共同で行う各種キャンペーンに対する分担金  
※3 「世界子供白書」「ユニセフ年次報告」などの刊行物の作成・配付、ホームページの作成・更新、現地報告会やセミナー・シンポジウム開催、広報・アドボカシー・キャンペーンなどの費用  
※4 全国27の協定地域組織による広報・啓発活動関係費  
※5 国際協力に携わる人材育成にかかる費用



# 子どもたちへの成果

皆さまのご寄付で 子どもたちの笑顔と  
かけがえのない未来が守られています



ユニセフは最も支援の届きにくい  
子どもたちを最優先に、  
世界約190の国と地域で活動しています。

- ユニセフが支援プログラムを展開する国と地域
- 33のユニセフ協会(ユニセフ国内委員会)

※地図上の国境線は図示的であり、その法的地位について  
ユニセフやユニセフ協会の立場を示すものではありません。

## ソマリア

2歳未満児**25.5万人**に  
家庭で摂取できる  
微量栄養素サプリメントを提供  
(2023年8月時点)

## ハイチ

約**1,200万個**の  
家庭用浄水剤と  
**50万個**の石けんを提供  
(2023年8月時点)

## モーリタニア

現地メディアと連携し  
**280万人**に感染症の予防に  
関する情報を提供  
(2023年6月時点)

## 南スーダン

パートナーとともに生後6~59カ月の子ども  
**270万人**に  
はしかの予防接種を実施  
(2023年7月時点)

## ベネズエラ

結核、ジフテリア、百日咳、破傷風、B型肝炎、  
B型インフルエンザを予防するワクチンの  
接種を合わせて**160万回**実施  
(2023年6月時点)

Tonga

## 子どもの生存と成長



スーダン

### 未来を守る「栄養治療食」

ビーナッツや砂糖、油、粉ミルクの混合物を使用したエネルギー密度の高い「栄養治療食」。ユニセフはこうした保健・栄養物資をスーダン全土に届けるとともに、国内にある栄養治療センターの運営・維持を支援しています。

スーダンには、長らく紛争の影響で、家を追われ、ほとんど何も食べられないまま移動を余儀なくされる子どもがたくさんいます。ある日、3歳のアルバトゥールちゃんは突然、嘔吐と下痢を繰り返し、起き上がれなくなってしまいました。合併症を伴う重度の急性栄養不良でした。

幸い、栄養治療の専門家がいた病院に入院できたアルバトゥールちゃんには、すぐに緊急の処置が施されました。症状が落ち着くと栄養治療食を少しずつ食べられるように。「娘の顔色がどんどんよくなりました」と、膝の上に座り、時折水を口にしながら栄養治療食を食べる娘を、お母さんはいとおしそうに見守ります。病院では、保護者に栄養指導を行っていて、お母さんも熱心に学んでいます。

アルバトゥールちゃんはすっかり元気になり、退院の日も近いとのこと。一袋の栄養治療食が守ったのは、スーダンの未来そのものです。



母親の膝の上で栄養治療食を食べるアルバトゥールちゃん

## 公平な機会



カンボジア

### 「前向きな子育て」が、子どもたちの未来を拓く

「子どもは真っ白な紙です。私が叩けば彼も誰かを叩くようになる。私は、それすら知らなかったのです」。カンボジア北部の山岳地域で暮らす少数民族・クルン族のラオさんは、6歳のサチャくんのお母さん。遠隔地に暮らす少数民族の村では、適切な子育ての知識を持たないまま若年結婚・出産する親が多く、ラオさんもその一人でした。

村のボランティア委員会はユニセフとカンボジア政府当局などの支援を受けて「前向きな子育てプログラム」を展開し、多くの親がその研修に参加しました。

研修後には、子どもを保健センターへ連れて行き、出生証明書を取得し、予防接種や検診を受けさせる親が大幅に増えました。さらに、教育の重要性が認識されたことで、我が子の学習状況をチェックしたり、学校行事を手伝ったりする親も多くなりました。

以前より病気をしなくなったという息子の肩を抱きながら、「これまで民族の言葉を話していたこの子が、いまではクメール語\*を流ちょうに話すんです」と、ラオさんは誇らしげに語ります。研修を通して親たちの意識が変わったことで、小さな村の中で暮らす少数民族の子どもたちは、これまで以上に健康に育ち、積極的な学習の機会を得ています。

\*カンボジアの公用語



ラオさんと自慢の息子・サチャくん

## 教育



トンガ

### 新しいカリキュラムは「ヘイララ」!

にぎやかな声が聞こえてくる教室には、色鮮やかな手作りの教材で学ぶ子どもたち。トンガでは国花の名前にちなんだ「ヘイララ」という新しい就学前教育カリキュラムが採用されています。その特徴は、遊びを通じた学び。トンガの伝統文化を重んじ、地域で手に入る材料で作ったボールや縄などを教材に、子どもの興味・関心を刺激します。

この学校の教員、アナさんが担当する15人ほどのクラスには、時折クラスメイトに乱暴をする男の子がいました。アナさんはヘイララの研修で学んだユニークな授業を実践しながら、一人ひとりに注意深く目を配り愛情をもって向き合いました。すると、彼の行動は、自分の思いを上手に表現できないことが原因だとわかったのです。小学校教育を基準にしたヘイララ以前の形式的な就学前教育では、もしかしたら彼は居場所をなくしてしまっていたかもしれません。

いま、彼のお気に入りの場所は教室の一角にある絵本コーナー。「彼は自分から声をかけて、たくさん友達と一緒に毎日絵本を読んでいます」と、アナさんは話します。

ユニセフは、このヘイララの開発と展開に技術的・資金的支援を行い、いまでは離島を含むトンガ全土の就学前教育を行うすべての教員に対し、ヘイララの研修が行われています。



教室は笑顔と笑い声に満ちています

## 水と衛生



コンゴ民主共和国

### 「みんな」のための水

コンゴ民主共和国では、複雑で長期化した武力紛争、また繰り返される感染症の集団発生の影響を受け、命の危険にさらされている子どもが約1,500万人います。北キブ州では、2023年7月までに8,000人以上の子どものコレラに感染。これは前年の年間感染者数の6倍にあたります。

水・衛生環境の改善がこれまで以上に重要な課題となる中、ユニセフは、北キブ州にある国内避難民キャンプに7万リットル分の貯水槽を2基設置するとともに、そこで暮らす4,000世帯へトラックで水を運び届けてきました。

そして2023年秋、地域を継続的に開発することを視野に、政府やパートナー団体などの連携により、5キロメートルに及ぶ大規模な水道管と幹線道路沿いへの配水ポストを整備しました。この水道インフラ整備によって、安心・安全な水を、キャンプで暮らす避難民だけでなく、受入れ地域の人々も含めた「みんな」に届けることで、その生活が等しく「潤う」こととなります。

避難民キャンプで5人の子どもを育てるフレディアナさんは次のように話します。「水があるおかげでみんな仲良く暮らせています。あとは、紛争が終わり家に帰れる日が来ることを願うばかりです」。



緊急支援が地域の継続的な開発につながっています

## 子どもの保護



グアテマラ

### 二度と怖い思いはさせない

エレナちゃん(仮名)は7歳。彼女は母親の恋人から、暴力と性的虐待を受けていました。夫の父親から通報を受けた政府当局は、エレナちゃんを父親のもとで育てよう命じるとともに、必要な心理社会的ケアを受けられる態勢を整えました。エレナちゃんは心理カウンセリングを受けながら少しずつ笑顔を取り戻しています。

実は、エレナちゃんの新しいお母さんとなった父親の恋人も性的虐待の被害者でした。「あの子には二度と怖い思いをさせません。エレナは私のことを、ママと呼んでくれるから」。グアテマラでは、子どもに対する虐待が毎日40件近く発生している、との報告があります。そして被害児童の大半は、専門的な心理社会的ケアの支援を受けていません。

エレナちゃんの好きな色は紫で、イチゴのアイスクリームとピザが大好き。好きな「動物」はユニコーンで、「ママは女王様、パパは王様、私はお姫様」と大きな声でおしゃべりしながらたくさん絵を描きます。ユニセフは政府やパートナー団体とともに、被害児童の保護と心理社会的ケアの支援を続けています。

子どもが一人保護されるたび、そこには希望が生まれるのです。



お気に入りの人形を抱くエレナちゃん。以前よりも笑顔が増えました。